

令和5年度第2回 三鷹市環境保全審議会議事録（要旨）

開催日時：令和5年11月21日（火） 午後2時30分から
クリーンプラザふじみ3階 研修ホール

<出席委員>

谷口委員、中嶋委員、志賀委員、荻野委員、清田委員、藤沼委員、利谷委員、山口委員、佐藤委員、成田委員、山田委員、おばた委員、石井委員、近藤委員

<傍聴人>

1人

<次第>

- 1 委員委嘱
- 2 委員自己紹介
- 3 市長あいさつ
- 4 事務局自己紹介
- 5 事務局より事務連絡
- 6 議事
 - (1) 会長の選出
 - (2) 副会長の選出
 - (3) 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）素案について
 - (4) その他

<配付資料>

資料1 「第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）素案」に係る市民意見への対応について

資料2 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）素案

参考資料 令和5年度 環境保全のあらまし

<議事内容（要旨）>

- 1 会長の選出
藤沼委員を会長とすることに決定した。
- 2 副会長の選出
利谷委員を副会長とすることに決定した。
- 3 第4期三鷹市地球温暖化対策実行計画（第1次改定）素案について
◇環境政策課長：資料1及び2により、素案に係る市民意見への対応などについて説明。

- ◆委員：資料2の37ページ以降に記載されている、市が率先垂範するものとして実現を目指す施策に関して、どのように実現していくのか、記載をするべき。例えば、「実現を目指して検討を進めるなかで、時期や具体的な内容を明らかにします」といった一文を入れられないか。
- ◇環境政策課長：計画への記載については検討していく。
- ◇生活環境部長：市としても、踏み込んだ内容となっていることから、時期などを明確にしづらい面がある。しかし、温暖化対策としては、このくらい思い切った施策が必要であるという思いから記載しているものである。
- ◆委員：現在、目標として掲げている50%削減について、より高い目標としていないのは、この方が取り組みやすく、結果的に削減が進むと考えたのか。
- ◇環境政策課長：まずは国が掲げている46%、さらに50%の高みをめざすといった表現に合わせて取り組み、その先の2050年カーボンニュートラルに向けて考えていきたい。
- ◆委員：ふじみ衛生組合によるプラスチック焼却を増やさないよう、具体的にはどんな取り組みを行っているか。
- ◇環境政策課長：ふじみ衛生組合やごみ対策課、環境政策課で連携して、各種キャンペーンや講座の実施などにより、建て替えなどの影響があったとしても削減目標に向けて取り組む。また、みたか環境活動推進会議などにおいても地道な啓発活動を行っている。
- ◇生活環境部長：リサイクルセンターの建て替えにあたっては、工事期間中のペットボトルは全量焼却を考えていたが、現在では、20%程度をリサイクルに回せるよう計画している。温暖化対策を考えるうえでは、この割合をさらに上げられないか検討していく。
- ◆委員：生ごみの堆肥化について、マンションなどでは堆肥を使いきれないため、市が回収して活用を図れないか。
- ◇生活環境部長：生ごみの堆肥化には多くの方が取り組んでいただいているが、堆肥をどこで使うか、というのが問題である。市が回収したとしても、現在は使い道がなく、農家が使うことにも抵抗があると伺っている。
- ◆委員：地下水のPFASの検査は行っているか。
- ◇環境政策課長：市の独自の調査は行っていない。都が、現時点では2カ所で行っており、国の暫定目標値を下回っている状況である。さらに、今年度中に2カ所で調査を行い、市内の4ブロックすべてで調査が行われる流れである。市による調査の実施は、今後の検討課題であると考えている。